

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

2. 学校概要

学校名 江東区立 深川第一中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒135-0004

東京都 江東区 森下 4-9-22

E-mail : harumayo1224@yahoo.co.jp

Website : _____

生徒数：男子 81名 女子 70名 合計 151名

児童・生徒の年齢 13歳～15歳

3. 実施活動（下記から選択して下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 持続発展教育 (ESD)
- 平和と人権
- 異文化理解

<p>(2) 実践内容、</p>	<p>②ユネスコスクール加盟校としての自覚・意識を子どもたちに共通認識・喚起させるため、第1～第3・特別支援学級を縦割りのグループに組織し、学年の枠を越えた学び合いの機会を設定する。</p> <p>2) 実践内容 (社会科6時間)</p> <p>公益財団法人「国際理解支援協会」の協力のもと、世界各国の外国人留学生を派遣してもらい、母国と日本との文化の相違点・母国のユネスコ世界遺産・母国の実情(紛争・エイズ・経済問題に関わる人権問題)を様々な資料や体験的学習をもとに学習した。</p> <p>※本年度派遣していただいた留学生出身国 シリア ベネズエラ キルギス共和国 ベトナム コンゴ民主共和国 インド</p>
<p>(3) 成果</p>	<p>3) 成果と課題</p> <p>グローバル化が加速する反面、中学生の段階で世界の人々と実際にコミュニケーションをとる機会があることは非常に稀である。そのような状況の中で、実際の外国の人々と接し、様々な方法により、他国の文化・実情を学ぶことで、社会科や総合的な学習の時間などで学習する内容に、より新鮮なりアリエーのある刺激を子どもたちに与えることが出来た。</p> <p>授業実践前の子どもたちは、英語圏以外の外国人に対し、興味は大変あるが、どのようにコミュニケーションをとれば良いのか、また、ニュース・新聞などのマスメディアの情報から推測する国のイメージが先行してしまい萎縮する部分が見られたが、授業が始まると笑顔の留学生に安心したのか活発なコミュニケーションが生まれていった。</p> <p>現在の世界各国の情勢・文化は、社会科などの授業の他にマスメディアからの情報などにより伝えられる。たとえば、イスラム圏でのテロ・国内の紛争などは、その国の人々や宗教のイメージまで「怖い」という感覚が自然と浸透してしまっている感がある。</p> <p>そのような状況の中、実際にその国に暮らす人々や宗教の特色に触れることは、間違っってとらえられている子どもたちのイメージを払拭し、広い視野を持たせる上で重要であると実感した。世界に貢献できる人材は、学校教育の場で今回のような取り組みを行って行くことが重要と考える。</p>

※ 資料 CDROM 参照